

MHC(日本組織適合性学会誌)の発刊にあたって

猪子 英俊

MHC 編集長：東海大学医学部，分子生命科学

さて、私は、昨年、日本の日本組織適合性学会において、編集理事を仰せつかり、日本組織適合性学会誌“MHC”の編集を、担当することになりました。微力ながら、全力を尽くす所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。何とか、本号が出来上がりましたが、今後本誌が、学問の発展とともに会員の交流、発展、啓蒙に役立ち、大きく育っていくことを、願ってやみません。編集方針など下記にしました(1994年12月9日の理事会にて、承認を受けました)が、これらは固定したものでなく、小さな学会の長所を行かして、皆様のより良い意見を採りいれながら、学問的に先進的な時代感覚に富んだ会誌になればと、考えています。皆様の活発なご批判、提言を期待いたします。

まず、ご理解いただきたい一番重要な点として、本会誌はレフリー制度をもうけていますので、ご投稿いただければ、原著論文として認められます。皆様のふるっての御投稿をお待ちいたします。論文は、短報的なものを中心といたしますが、もちろんフルペーパーでも、受け付けます。日本語でも英語でも可能です。どうしても早く、オリジナル論文として早く投稿したいというときには、利用価値が高いのではないかと、考えます。また、特に技術員の方々などの現場からのご投稿を歓迎いたします。

[会誌編集規定]

1. 編集方針

- 1) 学会に多くの後継者を育てるために、なるべく次世代の若い人に編集委員、編集協力者を要請する。
- 2) HLA 以外の MHC 研究者にも魅力ある雑誌

にする。

- 3) 学会員の多くを占める技術員の要望に答える雑誌にする。
- 4) 学会員数からみて、原著論文のみよりの構成は無理があるので、それ以外の魅力的な企画(総説、学会情報、Q&Aなど)を取り入れる。
- 5) 原則として、日本語で掲載するが英語で投稿された場合にも受け入れる。

2. 発行

年間3号を基本とする。

- No. 1—当該年度の学会長がとりまとめて、学会抄録、原著論文などを主とする。
6月頃発行する(学会開催日より以前に、学会員にとどくようにする)。
- No. 2—編集委員がとりまとめて、原著論文(Vol. 1, No. 1のようなミニ論文を中心とする)を主として、連載物(海外ラボ紹介、国際学会印象記、最新情報、書評、Q&A)などを加える。10月-11月頃発行する。
- No. 3—編集委員がとりまとめて、総説、異種MHC、HLA研究者の個人史、連載物などを盛り込み、ニューズレター的な特徴を中心とするが、原著論文も受ける。2-3月頃発行する。

さしあつたて、今年度はNo. 1が発行されているが、これよりさらに2つの号を発行するのは時期的にみて無理なので、内容はNo. 3に相当するNo. 2を発行する。

3. 編集委員、編集協力者

編集理事が関東在住なので、編集委員は関東在住で編集会議に参加しうる人とし、編集協力者は編集委員の要請で編集方針や雑誌の内容に対して助言する人とする。

編集委員長：猪子英俊（東海大学）

編集委員：大谷文雄（北里大学），小林 賢（防衛医大），徳永勝士（赤十字中央血液センター），中島文明（神奈川県赤十字血液センター），成瀬妙子（東海大学）

編集協力者：赤座達也，太田正穂，小河原悟，兼重俊彦，木村彰方，桑田昇治，小出幸夫，斎藤 敏，佐治博夫，佐田正晴，滝口雅文，田中秀則，徳永和夫，西村泰治，能勢義介，橋本光男，福西孝信，前田平生，丸屋悦子，水野伸一，屋敷伸治，協坂明美

編集委員と編集協力者は、日本組織適合性学会誌の編集に際して、投稿論文の審査（レフリー）のほかに、編集の提案、助言を行う。編集委員は、さらに編集の実務を行う。

4. 原稿と出版

原稿は、同時にフロッピーディスクも提出していただき、編集、印刷の正確さ、効率、省力化と費用の削減をはかる。刷り上がり、合計30～35枚位を予定し、部数は500部とする。

5. 執筆、投稿規定

5.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように、原稿は全て、コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する。一般的なワープロソフトを使用し、ソフト名を明記する。字体、サイズ、行の字数、行間、などの体裁は自由とする。また、図表については、写植でそのまま掲載できるものを提出するが、挿入箇所を本文に指定する。図については、天地を明示する。印刷の際に、縮小または拡大する場合があるので、考慮すること。また、図表の題や説明はワープロで、本文とは別頁に添付する。

5.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが、編集委員会が依頼することもありうる。原文1部及びコピー3部を提出する。日本語、英語を問わない。ただし、日本語で投稿の場合は、英語のタイトル、著者名、所属、要約を末尾につける。査読（レフリー）は編集委員及び編集協力者にお願いする。タイトル、著者名、所属は次の様式に従う。

Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity, designated DRB1*1307.

Toshihiko Kaneshige¹⁾, Mitsuo Hashimoto²⁾, Yayoi Murayama¹⁾, Tomoko Kinoshita²⁾, Tsutomu Hirasawa¹⁾, Kiyohisa Uchida¹⁾, Hidetoshi Inoko³⁾

- 1) Shionogi Biochemical Laboratories, Shionogi Company, Osaka
- 2) Kidney Transplantation Center, Hyogo Prefectural Nishinomiya Hospital, Hyogo
- 3) Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, Kanagawa

HLA class II の DNA typing と MLC
能勢義介¹⁾，稲葉洋行¹⁾，荒木延夫¹⁾，浜中泰光¹⁾，阪田宣彦¹⁾，土田文子²⁾，辻公美²⁾，成瀬妙子³⁾，猪子英俊³⁾

- 1) 兵庫県赤十字血液センター，検査課
- 2) 東海大学医学部，移植免疫学
- 3) 東海大学医学部，分子生命科学

内容は、要約 (Summary)、はじめに (Introduction)、材料と方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、参考文献 (References) の順に記載する。また、要約の末尾に英語で5語以内のキーワード (Keywords) を加える。脚注は適宜、設けてもよい。日本語で投稿の場合には、末尾に英語のタイトル、著者名、所属（様式は上述に従う）と要約をつける。枚

数に特に指定はないが、速報的な短報（全体で、2,000～3,000字、出来上がりA4版で2枚程度）を中心とする。もちろん、フルペーパー（full paper）も歓迎する。なお、参考文献（References）の記載については、下記5.5.を参照すること。

5.3. 総説、シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル、著者名、所属は上記2.の通りにしたが、その他の体裁は自由とするが、構成がいくつかの章、節などから成る場合には、次の番号に従い、適当な見出しを添える。

1. 2. 3. 4.
 1.1. 1.2. 1.3. 1.
4.
 1.1.1. 1.1.2. 1.1.3.
1.1.4.

脚注は適宜、設けてもよい。なお、参考文献（References）の記載については、下記5.5.を参照すること。

5.4. 校正

校正は編集委員が行い、特別な場合を除き、執筆者は校正を行わない。

5.5. 参考文献

参考文献は、本文中に数字で、例えば(3)の様に表示し、末尾にまとめて、次のようなスタイルで記載

する。ただし、著者名、または編集者名は、筆頭3名まで記載し、以下は省略する。

1. Kaneshige T, Hashimoto M, Murayama A, *et al.*: Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1*1307. *Hum. Immunol.* **41**: 151-160, 1994.
2. Inoko H, Ota M: *Handbook for HLA Tissue Typing Techniques* (eds. Bidwell J, Hui KM), PCR-RFLP. CRC Press, Boca Raton, 1993; p.1-70.
3. 能勢義介, 稲葉洋行, 荒木延夫ら: HLA class II の DNA Typing と MLC, 輸血, **39**: 1031-1034, 1993.
4. 猪子英俊, 木村彰方: 岩波講座分子生物学11巻, 生物体のまもりかた (本庶佑編), 自己と他の識別, 岩波書店, 東京, 1991; p.129-194.

6. 原稿送付先

〒259-11 神奈川県伊勢原市望星台
東海大学医学部 分子生命科学系遺伝情報部門 日本組織適合性学会誌 “MHC”
編集長 猪子 英俊
TEL: 0463-93-1211 内線2312
FAX: 0463-94-8884

〔伝言板〕 第5回 AOH(アジアオセアニア組織
適合性ワークショップ)のお知らせ

Pimol Chiewsilp

Histocompatibility and Immunogenetic Laboratory, Sirikit Medical Center
Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital

I am very pleased to announce that the 1995 Annual Scientific Meeting of the Australasian and South East Asian Tissue Typing Association (ASEATTA) has been combined with the 5th Asian and Oceania Histocompatibility (5AOH) Workshop which will be held in Bangkok, Thailand from 11 to 13 December 1995.

In addition to our usual conference on several aspects related to the major histocompatibility complex, the meeting will also emphasize the pre-analyses of the regional data for the 12th International Histocompatibility Workshop which will be held in France in June 1996. The 5AOH WS will cover the evaluation of new MHC typing/cross matching techniques, polymorphisms of new MHC genes and MHC in diseases e.g. autoimmune diseases, infectious diseases such as viral hepatitis and HIV infection. The appointed co-ordinators will send the details of the workshop proposals to you in the near future. Most of these Workshop activities, however, have already been included in the 12IHWS. Thus, the 5AOH Workshop will make use of these available data for discussions and future collaborations in the region.

Accordingly, I would like to cordially invite you to participate in this Workshop and meeting as well as welcome you to the land of smiles, beautiful landscapes, handicrafts and delicious tropical fruit. The topics that will be discussed at the meeting include ;

- (i) Histocompatibility and transplantations (solid organs and bone marrow),
- (ii) MHC and anthropology study,
- (iii) MHC structure, functions and polymorphisms,
- (iv) MHC and infectious diseases (HIV, TB),
- (v) MHC and autoimmune diseases (IDDM, SLE, RA),
- (vi) New MHC typing/cross matching techniques
- (vii) Presentations and discussions of 5AOH/pre-12 IHWS data analyses, and
- (viii) Free communications.

Please feel free to make any suggestions to make the upcoming ASEATTA meeting and the 5AOH Workshop in Thailand exciting, productive and pleasurable. The first announcement will be distributed in April. If you have any enquiries concerning the meeting and Workshop, please do not hesitate to contact me at :

Professor Pimol Chiewsilp
Histocompatibility and Immunogenetic
Laboratory
Sirikit Medical Center
Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital
Rama 6 Road, BANGKOK 10400
THAILAND
Tel: 66-2-2011780 Fax: 66-2-2461970
E-mail address: rapcw @mucc. mahidol.
ac. th

I believe that you will continuously support these activities in the Asia-Oceanic region and look forward to seeing you at the 5AOH Workshop and the ASEATTA Annual Scientific meeting in Thailand.

Sincerely yours

Pimol Chiewsilp, MD (President of ASEATTA, 1995)